

法を成ぜずと云ければ、隱士が云、我が失也。兼て誠めざりける事をと悔ゆ。然れども烈士師の恩を報ぜざりける事を歎て、遂に思ひ死にししぬとかかれて候。仙の法と申は漢土には儒家より出て、月氏には外道の法の一分也。云にかひ無き佛教の小乘阿含經にも不及、況や通別圓をや。況や法華經に及べしや。かゝる淺事だにも成ぜんとすれば四魔競て成じがたし。何況法華經の極理南無妙法蓮華經の七字を、始めて持たん日本國の弘通の始ならん人の、弟子檀那とならん人人の大難の來らん事をば、言をもて盡し難し、心をもてをしはかるべしや。されば天台大師の摩訶止觀と申文は天台一期の大事、一代聖教の肝心ぞかし。佛法漢土に渡て五百餘年、南北の十師智は日月に齊く、徳は四海に響きしかども、いまだ一代聖教の淺深勝劣前後次第には迷惑してこそ候しが、智者大師再び佛教をあきらめさせ給のみならず、妙法蓮華經の五字の藏の中より一念三千の如意寶珠を取出して、三國の一切衆生に普く與へ給へり。此法門は漢土に始るのみならず、月氏の論師までも明し給はぬ事也。然れば章安大師釋云、止觀明靜前代未聞云云。又云、天竺天論尙非其類等云云。其上摩訶止觀の第五卷の一念三千は、今一重立入たる法門ぞかし。此法門を申には必魔出來すべし。

魔競はずは正法と知るべからず。第五卷云、行解既勤三障四魔紛然競起乃至不可隨不可畏隨之將人向惡道畏之妨修正法等云云。此釋は日蓮が身に當るのみならず、門家の明鏡也。謹て習傳て未來の資糧とせよ。此釋に三障と申は煩惱障業障・報障也。煩惱障と申は貪・瞋・癡等によりて障礙出來すべし。業障と申は妻子等によりて障礙出來すべし。報障と申は國主父母等によりて障礙出來すべし。又四魔の中に天子魔と申も如是。今日本國に我も止觀を得たり。我も止觀を得たりと云人人誰か三障四魔競へる人あるや。隨之將人向惡道と申は只三惡道のみならず、人天九界を皆惡道とか(書)けり。されば法華經をのぞいて華嚴・阿含・方等・般若・涅槃・大日經等也。天台宗を除て餘の七宗の人人は、人を惡道に向しむる獄卒也。天台宗の人人の中にも法華經を信ずるやうにて、人を爾前へやるは惡道に人をつかはす獄卒也。今二人の人人は隱士と烈士とのごとし。一もかけなば成すべからず。譬ば鳥の二の羽、人の兩眼の如し。又二人の御前達は此人々の檀那ぞかし。女人となる事は物に隨て物を隨る身也。夫たのしくば妻もさかふべし。夫盜人ならば妻も盜人なるべし。是偏に今生計の事にはあらず。世生生に影と身と、華と果と、根と葉との如くにてお

①/ず...道と/10字(甲) 甲斐小室妙法寺藏 ②/き...いて/11字(甲) 甲斐小室妙法寺藏